

2025年度第2回契約監視委員会議事要旨

1. 日 時:2026年 2月20日(金)15:00~17:06
2. 場 所:JAXA東京事務所 地下階 B101、B102、B103 会議室
各拠点のTV会議端末拠点及び Teams
3. 出席者:大矢委員長、大久保委員、田澤委員、長沢委員、杵野委員、宮島委員
(※大久保委員、長沢委員は Teams によるリモート参加)
4. 審議概要:
 - (1)2025年度第1回契約監視委員会議事要旨の報告
事務局より資料1「2025年度第1回契約監視委員会議事要旨」に基づいて報告があり了承された。
 - (2)2025年度調達等合理化計画第2四半期の実施状況について
調達部推進課長より資料2「2025年度調達等合理化計画第2四半期の実施状況について」に基づいて報告があり、審議の結果了承された。
 - (3)2025年7~11月期に新規に締結した契約の点検
2025年7~11月期に新規に締結した契約の点検について、契約金額が大きいものを中心に選定し、契約の妥当性等の点検が行われたその結果、問題となる契約はなかった(個別案件ごとの点検内容は別紙のとおり)。
 - (4)事前メール審議について(民間競争入札(市場化テスト)実施事業の契約に係る自己評価方法について(意見聴取))
事務局(評価・監査部長)より説明があり、了承された。なお、今後のメール審議については Teams 等の活用を含め、より効果的な審議方法を検討することとされた。

別 紙

第2回 2026年2月20日

競争入札	一般競争	価格評価	3件	<ul style="list-style-type: none"> ① 2025 年度地球観測研究国際ワークショップ等の事務局運営支援 ② 宇宙機推進系ヘルスマニタ技術実証実験装置 Haru-X(BBM)の開発 ⑤ 2025 年度 筑波宇宙センター特別公開開催支援
競争性のない随意契約			2件	<ul style="list-style-type: none"> ③ 有人与圧ローバー適用を想定した疎水性金属有機構造体 CO2 吸着剤の試作および試験 ④ 2020 年代から 2040 年代における 打上げサービス市場の需要動向調査(2025 年度) 打上げサービス市場の需要予測および需要動向に関する調査(2025 年度)

① 2025 年度地球観測研究国際ワークショップ等の事務局運営支援
 [競争入札(価格評価方式)]

PI ワークショップは、衛星プロジェクトのアルゴリズム開発、校正・検証、ならびに応用研究の共同研究に関して、国内外の研究代表者(PI)等による研究成果報告、報告に基づく進捗確認等を行うものである。

「2025 年度 JAXA 地球観測ミッション合同 PI ワークショップ」は、複数のプロジェクトや研究分野のワークショップを合同開催するものであり、本業務では、当該合同 PI ワークショップの開催にかかる事務局運用支援を行う。

担当者より、以下の説明があった。入札経緯に関して、直近 3 年間の状況としては、今年度を除き複数社から資料請求があったが応札には至らなかった。(FY2023:5 社、FY2024:3 社)

辞退理由は、他受注業務との日程競合や繁忙期により人的リソースの確保が困難、事業者の競争参加資格に変更(全省庁統一資格 C→D 等級)があり参加資格を満たさなくなった等であった。

1 者応札の理由考察について、定型的な国際会議支援ではあるものの、複数のワークショップが同時に開催され、単一での開催とは違い、それに伴う人員確保と高度

なオペレーションが必要と考えられる。

確定分の定型業務については落札業者の単価は低く抑えられている。仕様と落札額は公開しており、過去の入札結果を踏まえたうえで落札が難しいと判断して応札に至らなかった可能性がある。また、実費精算対応に関して、複数予算ごとに管理および精算する必要があり、事務的負担が大きい事情もある。

今後の対策等としては、公告予告を活用し、広く事業者への周知する。また、入札公告期間を通常より多い日程で設定する等の工夫を図っていく。これにより、事業者側が人員確保等、体制を整えられることが期待できる。

競争参加資格について、D等級事業者での対応も可能であるため、下位等級拡大の検討をする。

委員から、1者応札に至った具体的な要因等について、質問があった。これに対して、時期的に他の国際会議等との競合があったこと、実費精算金額の占める割合が大きいこと等の回答があった。これを受けて委員から、色々な要因があるが、次回、規模の大きい国際会議を請け負える業者への声掛けを行う等の工夫をした方が良い、との意見があった。

② 宇宙機推進系ヘルスマニタ技術実証実験装置 Haru-X(BBM)の開発

[競争入札(価格評価方式)]

宇宙機推進系ヘルスマニタ技術実証実験装置(Haru-X)は、リアルタイムかつ自律的な故障診断により HTV-XG・HTV-X 発展型をはじめ宇宙機・探査機の推進系信頼性向上と効率的な冗長構成の実現による機体軽量化を実現することを目的として開発している。

Haru-X 装置は、HTV-X から圧力センサ計測データを受け取り推進系故障診断に必要となる処理を実施する。また、必要な通信・電力等のリソース供給を HTV-X から受ける。

Haru-X 装置は、HTV-X と H-SSOD(小型衛星放出システム)のコントローラとの既存 I/F (筐体取り付けにかかる機械的 I/F 等)を活用することで開発リスクの低減を図る。

Haru-X と HTV-X との電氣的インターフェースとしては、①電源、②RIM 通信、③圧力センサラインを持つ。特に新規性のある圧力センサラインとの I/F を含め、これら電氣的 I/F について BBM の製作・試験を実施することでフィージビリティ確認を行う。

Haru-X について、BBM レベルでのフィージビリティ確認を行い、搭載想定先である HTV-X との I/F も含めた検討を具体化する。また、本結果を踏まえ、PFM 開発(FY2026~)のコスト・スケジュールの精緻化・具体化を行うことを目的とする。

担当者より、以下の説明があった。本案件(BBM 開発)の前フェーズとして予備設計の検討を実施している。一般競争入札(事前審査付)を行い、2 者競争のうち当該業者が落札。

本案件については、入札説明書受領者数/入札説明会参加者数/入札参加者数ともに当該業者のみとなり、結果一者応札となった。公告開始の声掛けは広く行い前回の入札参加者へも実施したが、別ミッションとの兼ね合いやリソース確保の観点から本件への参加は辞退するとの申し出があった。

引き続き競争に際しては新規業者が参入しやすい仕様書の作成や説明会/事前審査などの実施に努め、広く業者への声掛けを実施していく。

委員から、予備設計と1本化できなかったのかとの質問があり、これに対し、予算上の制約により困難であった旨の回答があった。また、委員より、技術要求が明確にわかるよう技術仕様書を適用文書として明記する等、今後改善を図る必要あり、との意見があった。

③ 有人与圧ローバー適用を想定した疎水性金属有機構造体 CO₂ 吸着剤の試作および試験

[競争性のない随意契約]

本業務は、有人与圧ローバーに適用する再生型 CO₂ 除去装置の吸着剤 MOF の成型加工を行うと同時に、次年度実施を想定するフルスケール BBM 試験に必要な吸着剤 10 kg の調達、加工後の吸着剤の性能評価を行うものである。また、不要ガス吸着剤としての適用が期待される MOF の少量試作を行う。

担当者より、以下の説明があった。事前審査型の競争入札(一般)に付したが、唯一の事前審査合格者が公告期間中に事業再生手続きに入り、競争参加資格を喪失したため、不調となった。唯一の応札業者および管財人より事業再生に移行した経緯、今後の経営方針、JAXA 契約の実施可否をヒアリングし、契約が履行できる状況であることを確認した。JAXA として契約を進めるにあたり想定されるリスク等について整理し、調達リスクに対するリスク低減策を取った上で、随意契約を進めることは妥当と判断した。唯一の応札業者と商議を行い、合意したため契約を締結した。

今回の入札不調および不調随意契約は、「1者応札」かつ「メーカーの経営リスク」という低頻度・高影響リスクが顕在化したケースと考えられる。

1者応札に対しては、複数メーカーの参入を妨げる契約条件は設定していなかったものの、周知不足が改善点として挙げられる。1者応札は不測事態のときに代替不能というリスクがあるため、今後は公告前に複数メーカーへの積極的な情報提供および参加可能かの確認を行い、調達面・事業面のリスク低減を図る予定である。

メーカーの経営リスクに対しては、非公開情報であり外部へ通知義務がないことから、事業再生に入ったことを予見できなかったこと自体は不可抗力と考えられる。そのため、このようなことが起きても致命的にならないように、上述したとおり1者応札リスクに備えることや、プロジェクト全般にわたる調達に担保されるまでは技術的なバックアップを確保することで、調達面・事業面のリスク低減を図る予定である。

委員から、当該業者の財務状況の事前の確認状況、及び事業の継続性の検討状況について質問があった。

これに対し、財務状況については、国の競争参加資格に加えて経産省の J-STARTUP の認定もあり、国に認められたスタートアップ企業という前提があったこと、事業の継続性に関しては、研究開発段階のため、まずは単年度の契約先として検討した旨の回答があった。

委員から、ある意味珍しい、貴重な今回の経験を、組織全体として更に分析して共有することが、将来に向けて重要ではないか。今後、新たにスタートアップ企業等との取引を行っていくにあたって、大変参考になる案件になるのでは、とのコメントがあった。

④ 2020年代から2040年代における打上げサービス市場の需要動向調査(2025年度)

打上げサービス市場の需要予測および需要動向に関する調査(2025年度)
[競争性のない随意契約]

本業務は、H3 ロケットやイプシロン S ロケットの運用が見込まれる2020年代から2040年代に、両ロケットが国際競争力を獲得するための開発に資する情報を把握することを目的に、打上げサービス市場の需要動向を調査するもの。

打上げサービス需要動向調査は継続的に実施しており、これまでもH3 ロケットやイプシロン S ロケットのミッション要求の設定や、その後の審査会において同要求が引き続き妥当であるか等の確認に用いてきた。今回の調査結果は特にイプシロン S ロケットの計画変更審査において最新のニーズ動向を踏まえ開発に反映する事項の有無等を確認するための判断材料としており、加えて基幹ロケット高度化戦略に係る将来事業として2022年度より検討を進めているH3 ロケット高度化に対しても最新の需要動向情報を提供しプロジェクトの立ち上げに資するものとしている。

担当より、同内容で複数社(2社)へ発注した理由について、以下の説明があった。需要動向調査においては、各社独自の調査ノウハウや強みがあり、1社みの調査結果であると実態を適切に表しているかの評価が難しい。そのため、それぞれの調査結果を組み合わせることで主要打上げ国の調査結果を得るとも

に互いの調査結果の妥当性を検証している。

委員から、今後も当該 2 社への依頼を継続するのであれば、今後に向けて、随契理由(ウ)項の適用解釈の範囲についていまいちど検討いただきたい旨の意見があった。

⑤ 2025 年度 筑波宇宙センター特別公開開催支援
[競争入札(価格評価方式)]

本業務は、2025 年 11 月 8 日に実施する筑波宇宙センターの特別公開にあたり、案内板の設置、テントや仮設トイレ、机・椅子・休憩用テーブルセット等のレンタルと設置・撤去作業、駐車場の事前整備や立ち入り禁止区域の防護措置、並びに入場者の待機場所の設営・撤去、来場者数のカウントやバスの待機列整理支援業務などを実施するものである。

担当より、以下の説明があった。要求仕様は、特異な要求も無く、規模感等を示していることから、要求仕様が過大・不明瞭とは言えないと考える。

公告開始後に担当者から声かけを行うなど 1 者応札を回避する行動をとっていたものの、他のイベントと日程が競合したため札入れに至らなかった。

毎年 50 程度のイベントを企画しているが、イベントの詳細が決定しないことには、立ち入り禁止措置の範囲やテントや椅子等の数量や設置場所が明確にならず、入札時期に影響が出る。

今後の対策として、来年度については、TX 基地祭など、近隣の大規模イベントを実施する業者を調査し声かけを実施したい。

イベントの詳細決定時期を早め、早期に仕様を確定し入札日から業務実施日までの期間を確保できるようにしたい。

委員から、仕様書等の受領者が 2 者だった際の応札に至らなかった理由について、今後同様の案件が生じた際には辞退者への聞き取り状況についても報告いただきたい旨の意見があった。また、仕様書に関して例年、最終確定までにかかりの時間を要してしまっている点について、他機関において、基本的に必ず実施する部分の基本契約+可変変動費契約としている事例もあるため、検討いただければ、との助言があった。さらに、アウトカム目標と費用対効果についても今後より考慮されたほうが良い、とのコメントがあった。

以 上